

日本音楽知覚認知学会 平成 30 年 (2018 年) 第 2 回理事会 議事録 (案 2)

日時: 平成 30 年 (2018 年) 12 月 8 日 (土) 午前 10 時 00 分~12 時 05 分

場所: 龍谷大学深草キャンパス

参加者: 中島祥好, 谷口高士, 小川容子, 三雲真理子, 大串健吾, 桑野園子, 亀川徹, 荒川恵子, 西村明, 山崎晃男, 菅千索, 川上央, 星野悦子, 小堀聡, 松本じゅん子, 森下修次, 三浦雅展

議題

1. 次期体制, 次期選挙について: 中島祥好会長, 亀川徹理事 (選挙担当)

来年度春季研究発表会で, 中島祥好会長が任期満了に伴う退任に基づき, 選挙管理委員会が立ち上がる旨が審議された。予定では, 来年 3 月頃に選挙用紙を郵送し, 4 月頃に確定する旨が認められた。詳しい日程については後日メールで連絡する旨が承認された。

2. 平成 30 年度秋季研究発表会選奨について: 荒川恵子常任理事 (学会賞担当)

ポスター発表と発表会選奨についての進行について議論し, 認められた。特に授賞対象者の受賞資格については, 発表者からの報告に基づいて進め, 学会として生年月日を調べることは難しいことが報告され, 承認された。会費の納入状況については事務局と連携を取りながら進めることが審議され, 認められた。

3. 学会誌の編集体制, 現状について: 西村明常任理事 (学会誌編集委員長)

今年 6 月より編集委員長となった西村明常任理事より, 状況が確認された。24 巻 1 号は 12 月に発送が完了したことが報告された。LIRM からの要請により, 発送可能な学会誌冊子を一部づつ送付する予定であることが報告された。また, J-STAGE の利用については川上央常任理事 (事務局担当) が連絡をとりながら進めており, 査読システムについても J-STAGE 上で進める方法について確認中であることが報告された。

また発刊後の公開時期については, 1 年後とすると会員への公開時にパスワードの設定などについての手続きが複雑になることが分かった。よって公開時期, 会員向けパスワードの設定も含めて編集委員会に一任となった。公開対象については, 原稿のみか, あるいは雑誌すべてなのかについて議論した。その結果, これまでに電子化されている雑誌については雑誌全体を公開し, 過去のものについては論文単体で公開する旨が認められた。

4. 名誉会員等推薦, 選考の方針について: 大浦容子理事/代理 谷口高士副会長

これまでの顧問と理事会顧問に関する本会での経緯について報告された。また, 理事会顧問を推薦する基準の案として, 「顧問と理事会顧問の推薦基準等に関する細則」が提出された。その内容について議論した結果, 推薦については会長の推薦する者に対して, 理事会出席者の三分の二をもって決定とし, メール審議の場合は設定したメットまでに返信されたメールを出席者とみなすことが認められた。なお, 顧問の推薦基準については議論されなかったものの, 現在の顧問の先生へは中島祥好会長より連絡することが報告された。

5. 第 15 回, 第 16 回 ICMPC 大会について: 山崎晃男常任理事 (国際渉外担当)

第 15 回にオーストラリアのグラーツを拠点として開催された ICMPC について報告された。総発表者数は 990 名, 日本人の発表者数は 19 名であったことなどが報告された。第 16 回については, 予定では APSCOM が主催団体であり, オーストラリアが本来担当することになってい

たが 2018 年 4 月頃にできないと告げられた。その後、2018 年秋に APSCOM の会長が中国の方になったが、中国でも開催できないことが判った。その後、構成国である日本と韓国について検討したものの、実施は難しいとなった。現在は構成国ではないアジア地域で検討が進んでいることが報告された。今後は、現状について理事会より APSCOM へ問い合わせることが報告された。引受け先が見つからない場合には川上理事に開催を依頼する案について話しあわれた。

6. 平成 31 年度春季研究発表会、および秋季研究発表会について：谷口高士副会長、松本じゅん子理事（研究発表会担当）

来年度春季については、山崎晃男常任理事が会場を担当し、大阪樟蔭女子大学で開催することが報告された。日程候補については、6/1,2 であることが承認された。来年度秋季大会については現時点では保留となっていることが報告された。

7. 30 周年記念出版について：星野悦子監事（同誌編集代表）

30 周年記念出版について審議された。タイトルは「音楽知覚認知ハンドブック」、400 ページ、5800 円であることが報告された。その後、学会会員に寄贈する費用として、1458,259 円を学会誌出版積立金より支出することが提起され、審議の上了承された。また副題「音楽の不思議の解明に挑む科学」についても承認された。

8. 音知会研究発表会に際しての激甚災害に関する措置について：中島祥好会長、谷口高士副会長（研究発表会担当）

激甚災害に合われた方が本会に参加される場合には、自己申告により参加費を無料にすることが審議され、承認された。今後について、本会としては自己申告に基づく方法を継続し、申告フォーマットについて審議された。判断に迷う場合は理事会審議とし、それ以外については現場判断とすることが確認された。

9. その他

大串健吾理事会顧問より、今年度をもって理事会顧問を退任されたい旨が報告され、承認された。

報告

1. 平成 30 年度春季研究発表会選奨受賞者について：荒川恵子常任理事（学会賞担当）

口頭発表については該当者無しであることが報告された。また、ポスター選奨者については以下の方へ授賞したことが報告された。

北村柚葵（東京学芸大）

「小児期の音楽経験が音高弁別能力に与える影響」

以上.